

2024年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年12月8日

上場会社名 HEROZ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4382 URL https://www.heroz.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 林 隆弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 森 博也 TEL 03 (6435) 2495
 四半期報告書提出予定日 2023年12月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年4月期第2四半期の連結業績（2023年5月1日～2023年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第2四半期	2,335	205.2	449	374.3	252	572.1	212	451.0	△30	—
2023年4月期第2四半期	765	—	94	—	37	—	38	—	△513	—

(注) 包括利益 2024年4月期第2四半期 79百万円 (—%) 2023年4月期第2四半期 △505百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第2四半期	△2.03	—
2023年4月期第2四半期	△34.17	—

※EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額＋株式報酬費用＋棚卸資産評価損）

- (注) 1. 2023年4月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年4月期第2四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。また、2023年4月期第2四半期は子会社の貸借対照表のみを連結しており、損益計算書は2023年4月期第3四半期より連結しております。
2. 2023年4月期第2四半期並びに2024年4月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第2四半期	8,517	6,093	68.5
2023年4月期	8,673	6,080	67.4

(参考) 自己資本 2024年4月期第2四半期 5,830百万円 2023年4月期 5,845百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年4月期	—	0.00	—	—	—
2024年4月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年4月期の連結業績予想（2023年5月1日～2024年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,800	61.0	400	55.1	385	78.1	30	—	2.00

(参考) EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額＋株式報酬費用＋棚卸資産評価損）

2024年4月期（通期）800百万円

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年4月期2Q	15,040,737株	2023年4月期	15,027,181株
② 期末自己株式数	2024年4月期2Q	45株	2023年4月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年4月期2Q	15,030,317株	2023年4月期2Q	15,026,042株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

前第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しており、前第2四半期連結会計期間は子会社の貸借対照表のみを連結し、損益計算書は前第3四半期連結会計期間より連結しております。

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済状況は、所得・雇用環境が改善される中、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が期待されているものの、世界的な金融引締めが続く中で海外景気の下振れが国内景気に及ぼすリスクが見られる等、先行きが不透明な状況が続いております。

その一方で、情報サービス業界においては、従来なかったスピード感での技術革新や、少子高齢化・生産年齢人口の減少等を受け、デジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する投資が引き続き拡大を続けています。特に、AI市場においては、OpenAI社による「ChatGPT-3.5」「ChatGPT-4.0」のリリースに端を発した、各産業におけるAIトランスフォーメーション（以下、「AIX」という。）に関する投資の加速が続いており、今後もLLM（Large Language Model：大規模言語モデル）を含むAIの需要拡大・社会実装が急激なスピードで進むことが予想されます。なお、当社グループでは、AIXとは、AIを社会に浸透させることにより、その力を通じて既存の業務プロセスやビジネスモデル等を含めて社会全体に抜本的な変革を起こすこと、ととらえております。

また、SaaS市場においても、導入の需要のみならず、「ニーズの多様化に伴うSaaS間連携」「統合管理の複雑化によるセキュリティ要件の高度化」等に関する需要拡大が見込まれるほか、セキュリティ市場においても、サプライチェーンを狙ったサイバー攻撃や一般企業・病院等を狙うランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）が増加しており、また企業によるクラウドサービスの利用やDX化の推進等もあって、セキュリティ対策は必然となっております。

このような環境の中で、当社グループは、「AI革命を起こし、未来を創っていく」というビジョンのもと、「AI×SaaS」戦略を掲げ、AI・SaaS・セキュリティ関連技術を用いたソリューション提供やLLMを含むAIの社会実装等に努めたほか、「LLM関連の研究開発強化」「グループシナジーの強化」等も進めてまいりました。今後も、AI関連技術の利活用によるソリューション提供を通じた各企業・業界のAIX推進のみならず、LLMを含むAI・SaaS・セキュリティ関連分野において積極的に研究開発を進め、よりスピード感をもってグループ全体の事業拡大を目指してまいります。

また、2023年11月に、コンタクトセンター領域において各種ソリューションを提供している株式会社エーアイスクエアの株式を取得し、子会社化を行いました。コンタクトセンターの運営業務と、AIによる業務の自動化・学習は非常に親和性が高く、業務精度の向上や作業の効率化、人件費等のコストの大幅な削減等が見込まれることから、当領域での高度なAIソリューションに対する期待感・需要も高まっております。エーアイスクエアが提供するコンタクトセンター領域のサービスと、当社が保有するコアAIの開発技術やLLMの活用ノウハウを通じて、コンタクトセンター領域・業界におけるAIXを目指してまいります。

なお、セグメント別の経営成績の概況は以下の通りです。

（AI/DX事業）

AI/DX事業は、当社グループに蓄積されたAI・SaaS関連技術・ノウハウ・データ等を活用し、AI関連ソリューションの提供やSaaS導入支援・SaaS間連携開発等を提供することにより各企業・業界のAI/DX化推進を目指すセグメントとなります。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループのAI/DX事業については、BtoC領域における将棋への注目度向上や新サービスのリリース、BtoB領域における案件数・引き合いの増加や大型案件の獲得もあり、収益が拡大しております。

BtoC領域については、藤井聡太竜王・名人による史上初の八冠獲得に伴う将棋への注目度向上等の効果により、「将棋ウォーズ」「棋神アナリティクス」ともに安定した収益を上げました。2023年10月には、人気将棋漫画「バウンダー盤王-」とのコラボや、将棋初段昇段を目指すeラーニングサービス「棋神ラーニング」をリリースし、「棋神ラーニング」のユーザー数は計画を大幅に上回る水準で推移しております。また、BtoB領域についても、LLMを含むAIに関する投資拡大・注目度向上を受け案件数・引き合いの増加や大型案件の獲得等もあり、収益が大幅に拡大しております。

当セグメントにおいて、LLMの活用・社会実装は事業戦略の中核となるテーマであり、今後も、2023年5月に新設された専門組織「LLM Group」を中心にスピード感をもって研究開発を進めてまいります。その取り組みの一環として、2023年9月に、LLMを活用したAIアシスタントサービス「HEROZ ASK for Enterprise」をリリースいたしました。まずはエンタープライズ向けに期間限定でクローズドβの無料提供を開始し、今後はパーティカルSaaSシリーズとして拡大を予定しております。

（AI Security事業）

AI Security事業は、グループ会社であるバリオセキュア株式会社が提供するインターネットセキュリティ関連の事業となります。

同社は、従来のゲートウェイセキュリティに加え、エンドポイントセキュリティ対策としてサイバー攻撃の兆候を検知するVarioマネージドEDR、増加するランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）から企業の情報資産を守るデータバックアップサービス（VDaP）、社内の通信機器の状況を運用監視し、通信環境を脆弱性から守るマネージドLAN/WIFI等の各種サービスにより、増大する脅威に対して多層防御により安心、安全なビジネス環境の構築を支援してまいりました。

また同社は、2024年2月期から2026年2月期にかけて、中期経営方針のもと「マネージドサービスの対応領域拡大・競争力強化」「成長セキュリティ市場への参入」「既存販売網と異なる新規営業体制の強化」を掲げ、人材の獲得、サービス企画・事業開発の強化、ソフトウェア開発等の事業投資を行う計画を公表し、実現に向けての取り組みを行っております。

そのほか、両セグメントにまたがる取組として、2023年7月に、バリオセキュア社の運用監視管理サービス「AI SOC」に当社のAI技術を活用し、業務効率化を目指す旨のリリースを発表しており、今秋より実運用を開始しております。今後も、グループシナジー・連携の更なる強化に努めてまいります。

費用面に関して、当社にてオフィス体制の見直しを行う等、適切なコストコントロールを進めましたが、一方で、事業・サービス拡大に伴う人材採用強化による人件費等の増加や、取締役・執行役員に関する業績連動報酬の概算計上のほか、広告宣伝強化・追加のM&Aに関連した監査関連報酬の発生・為替の影響によるサーバ利用料の増加等により、売上原価・販売費及び一般管理費は増加しております。そのほか、営業外費用として株主優待関連費用11,896千円が発生しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,335,506千円（前年同期比：205.2%増）となり、EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却のれん償却額＋株式報酬費用＋棚卸資産評価損）449,398千円（前年同期比：374.3%増）、営業利益252,067千円（前年同期比：572.1%増）、経常利益212,829千円（前年同期比：451.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純損失は30,504千円（前年同期は513,497千円の損失）となりました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の損益状況については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ155,923千円減少し、8,517,124千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少246,791千円があったこと等によりです。

（負債の部）

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ169,177千円減少し、2,423,541千円となりました。これは主に、長期借入金の減少101,560千円があったこと等によりです。

（純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ13,253千円増加し、6,093,583千円となりました。これは主に、新株予約権の増加15,361千円があったこと等によりです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、3,551,600千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、108,541千円（前年同四半期は82,183千円の収入）となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益の計上212,829千円、売上債権の増加100,724千円です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、148,594千円（前年同四半期は45,079千円の支出）となりました。主な内訳は、無形固定資産の取得による支出134,389千円です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、206,738千円（前年同四半期は257千円の収入）

入）となりました。主な内訳は、非支配株主への配当金の支払104,296千円、長期借入金の返済による支出101,560千円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月期の連結業績予想につきましては、2023年6月9日に公表いたしました連結業績予想の数値から変更はありません。

なお、当社は2023年11月30日に株式会社エーアイスクエアの株式取得及び連結子会社化をいたしました。本件が2024年4月期の通期連結業績に与える影響につきましては現在精査中であり、今後公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。詳細は、2023年11月24日付で開示いたしました「株式会社エーアイスクエアの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」をご覧ください。

また上記予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,798,391	3,551,600
売掛金及び契約資産	669,332	770,055
棚卸資産	260,283	291,575
その他	235,956	219,841
流動資産合計	4,963,963	4,833,073
固定資産		
有形固定資産	237,318	216,489
無形固定資産		
のれん	2,311,872	2,221,806
ソフトウェア	223,255	191,511
ソフトウェア仮勘定	105,560	246,982
無形固定資産合計	2,640,689	2,660,300
投資その他の資産	831,077	807,261
固定資産合計	3,709,084	3,684,051
資産合計	8,673,048	8,517,124
負債の部		
流動負債		
買掛金	101,223	108,690
1年内返済予定の長期借入金	200,780	200,000
未払法人税等	154,035	126,303
賞与引当金	29,729	32,217
契約損失引当金	101,395	101,395
株主優待引当金	—	10,963
その他	407,408	410,528
流動負債合計	994,571	990,098
固定負債		
長期借入金	1,301,560	1,200,000
繰延税金負債	477	—
その他	296,110	233,443
固定負債合計	1,598,147	1,433,443
負債合計	2,592,719	2,423,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,128	21,434
資本剰余金	5,303,446	5,306,957
利益剰余金	516,421	485,917
自己株式	—	△101
株主資本合計	5,829,996	5,814,207
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,057	16,701
その他の包括利益累計額合計	15,057	16,701
新株予約権	29,781	45,142
非支配株主持分	205,493	217,531
純資産合計	6,080,329	6,093,583
負債純資産合計	8,673,048	8,517,124

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
売上高	765,362	2,335,506
売上原価	451,596	1,142,338
売上総利益	313,766	1,193,168
販売費及び一般管理費	276,262	941,101
営業利益	37,503	252,067
営業外収益		
受取利息	18	18
持分法による投資利益	14,594	—
固定資産売却益	—	158
還付加算金	287	11
その他	11	573
営業外収益合計	14,912	761
営業外費用		
支払利息	—	5,447
投資有価証券運用損	13,788	10,786
株主優待関連費用	—	11,896
貸倒引当金繰入額	—	7,000
その他	3	4,867
営業外費用合計	13,792	39,998
経常利益	38,623	212,829
特別損失		
段階取得に係る差損	541,091	—
特別損失合計	541,091	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△502,468	212,829
法人税、住民税及び事業税	37,822	128,096
法人税等調整額	△26,792	6,457
法人税等合計	11,029	134,554
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△513,497	78,275
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	108,779
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△513,497	△30,504

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△513,497	78,275
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,965	1,643
その他の包括利益合計	7,965	1,643
四半期包括利益	△505,532	79,918
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△505,532	△28,860
非支配株主に係る四半期包括利益	—	108,779

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△502,468	212,829
減価償却費	56,574	82,647
のれん償却額	—	90,066
敷金償却	670	1,482
株式報酬費用	—	20,428
受取利息及び受取配当金	△18	△18
出資分配金	△11	△14
支払利息	—	5,447
投資有価証券運用損益(△は益)	13,788	10,786
持分法による投資損益(△は益)	△14,594	—
段階取得に係る差損益(△は益)	541,091	—
固定資産売却損益(△は益)	—	4,476
賞与引当金の増減額(△は減少)	790	2,488
株主優待引当金の増減額(△は減少)	—	10,963
売上債権の増減額(△は増加)	△64,882	△100,724
棚卸資産の増減額(△は増加)	—	△31,292
前渡金の増減額(△は増加)	—	14,309
前払費用の増減額(△は増加)	13,219	7,848
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,061	7,966
未払金の増減額(△は減少)	△6,577	17,588
未払費用の増減額(△は減少)	△419	△21,161
未払又は未収消費税等の増減額	△22,862	4,011
預り金の増減額(△は減少)	△4,142	△1,825
長期前払費用の増減額(△は増加)	—	△20,977
長期前受金の増減額(△は減少)	—	△55,579
契約負債の増減額(△は減少)	△7,274	△4,883
その他	1,170	5,176
小計	1,994	262,040
利息及び配当金の受取額	18	18
持分法適用会社からの配当金の受取額	49,498	—
出資分配金の受取額	11	14
利息の支払額	—	△5,406
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	30,661	△148,124
営業活動によるキャッシュ・フロー	82,183	108,541
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,354	△34,291
有形固定資産の売却による収入	—	252
無形固定資産の取得による支出	△14,109	△134,389
投資有価証券の取得による支出	△58,010	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	28,938	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	25,534
投資事業組合からの分配による収入	456	1,299
貸付けによる支出	—	△7,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45,079	△148,594

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△780
長期借入金の返済による支出	—	△101,560
新株予約権の行使による株式の発行による収入	257	—
自己株式の取得による支出	—	△101
非支配株主への配当金の支払額	—	△104,296
財務活動によるキャッシュ・フロー	257	△206,738
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	37,361	△246,791
現金及び現金同等物の期首残高	3,660,270	3,798,391
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,697,632	3,551,600

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年5月1日 至 2022年10月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	合計
	AI/DX事業	AI Security事業 (注) 1	計		
売上高					
外部顧客への売上高	765,362	—	765,362	—	765,362
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	765,362	—	765,362	—	765,362
セグメント利益又は 損失(△)	246,931	△11,792	235,138	△197,635	37,503

(注) 1. AI Security事業のセグメント損失△11,792千円は、子会社化に伴い発生したデューデリジェンス費用であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△197,635千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2023年5月1日 至 2023年10月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,029,930	1,305,575	2,335,506	—	2,335,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,867	462	9,330	△9,330	—
計	1,038,798	1,306,037	2,344,836	△9,330	2,335,506
セグメント利益	321,554	431,759	753,314	△501,247	252,067

(注) 1. セグメント利益の調整額△501,247千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、前第3四半期連結会計期間より、従来の「AI関連事業」から、「AI/DX事業」と「AI Security事業」の2区分へ変更しております。

この変更は、前第2四半期連結会計期間に、バリオセキュア株式会社及び株式会社ストラテジットの株式を取得し連結子会社化したことに伴い、各グループ会社の事業内容およびビジネスモデルを鑑み、事業セグメントの見直しを行ったことによるものです。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しています。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。